

片野鴨池

(かたのかもいけ)

位置：北緯36度19分、東経136度17分／標高：2.5～8.0m／面積：10ha／湿地のタイプ：淡水湖、水田／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区、国立公園特別地域／所在地：石川県加賀市／登録：1993年6月／国際登録基準：3／EAAFPネットワーク参加地

湿地のタイプ：淡水湖、水田



坂網を投げ上げるようす(実際には日没時に行われる)



東から見た鴨池の全景



鴨池の水鳥

湿地の概要：

石川県の南端、福井県との県境に加賀市はある。片野鴨池は加賀市の西方、日本海から約1km内陸にある淡水の池である。2.5ヘクタールの大池と7.5ヘクタールのヨシ・マコモ・水田などの低湿地からなり、周囲をアカマツ、コナラ、タブ、スダジイなどに覆われた標高30～50mの丘に取り囲まれている。大池にはヒシ、コウホネ、マコモ、ミズアオイなどが自生している。

鴨池の名前どおり、昔からこの池にはカモやガンなどが多数飛来し越冬してきた。かつて鴨池の周りには同じような池や沼が点在していたが、江戸時代以降の農地開拓で、ほとんどが干拓されたり埋め立てられて水田となり、今では鴨池など数カ所が残されるだけになってしまった。

カモの池：

鴨池には毎年11月～3月、数千羽のマガモ、トモエガモ、マガン、ヒシクイなどが渡りの中継地、越冬地として訪れる。マガ

ン、ヒシクイの西日本最大級の越冬地となっている。オオタカ、クマタカなどの猛禽類も越冬する。湖畔にある鴨池観察館を中心に、こうした越冬環境の保全、管理、普及啓発、環境教育が、住民参加で活発に行われている。

伝統的な水管理と鴨猟：

片野鴨池は数百年前から周辺農地の灌漑用水池として利用され、人工的な水管理が行われてきた。夏の間は、大池の水を周辺の水田に配水して農業用水として利用し、稲の収穫が終わると配水をやめ、再び大池に水を溜める。こうして冬の間は開水面を拡大して、シベリアから渡ってくるカモやガンの利用しやすい環境をつくってきた。近年は冬の間、周辺の水田にも水を張る「ふゆみずたんぼ」が拡大し、水鳥の越冬環境が改善している。

鴨池では、こうして池に集まったカモを捕獲する「坂網(さかあみ)」という狩猟法が考案され、現在まで伝承されている。

【坂網猟】江戸時代から続けられてきた投

げ網によるカモ猟。カモは、昼は鴨池で休息し、夜になると鴨池周辺の水田へ落穂などの採餌に飛び立つ。この習性を利用し、日没時に池を取り囲む丘陵地の松林に身をひそめ、丘を飛び越える瞬間のカモに網を投げ上げ、からめとるのが坂網である。捕鴨組合が猟期、猟区、捕獲数などを厳しく規制し、また周辺環境の維持、保全に取り組んでいる。

●関係自治体

加賀市役所 Tel: 0761-72-1111

